

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学をアジア太平洋域における教育研究拠点に

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム広報委員会 公開日: 2007-07-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森田, 孟進, Morita, Moshin メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1148

琉球大学をアジア太平洋域における教育研究拠点に

森田孟進（琉球大学 学長）

琉球大学 21 世紀 COE プログラムは中間評価の結果を得、折り返し点を迎えました。私は、琉球列島の生物多様性という極めて興味深く、且つ重要な研究テーマに関して、本学の精鋭たちが研究を進め、研究教育拠点を構築すべく活動をしている様子を、個々の研究者の活動に敬意を表しつつ、頼もしく見守っております。これまで幾つかのイベントに参加する機会があり、その都度、本学が目指している地域性と国際性を併せ持った特徴が明瞭に出されている活動を直接見ることは大きな楽しみでした。

なかでも国際サマープログラムの開催等の活動を通じた若手研究者育成のプログラムやアジア太平洋域の研究機関と連携した国際的なプロジェクトを推進している様子は特徴的と言えます。また研究成果のひとつとして『美ら島の自然史 - 琉球列島の生物多様性』を出版するなど、その成果の多方面への公開にも努力しています。

本年度はフランス領ポリネシアにおいてフランス高等教育研究院(Ecole Pratique des Hautes Etudes) カリフォルニア大学バークレー校と共同で熱帯島嶼生態系とその持続的発展に関する国際シンポジウムを開催致しました。このシンポジウムには、3 機関の他、地元の研究機関、ハワイ、ニューカレドニア等から多数の参加があり、ネットワークの拡大が実現するとともに、本学が太平洋域の生物多様性研究の拠点として存在することを確実に訴えようとしています。

ハワイ大学が中心となり、琉球大学、南太平洋大学（フィジー）、アジア工科大学（タイ）、国立サモア大学、国連大学などを結んだインターネットを利用した講義は準備期間を終え、本格的な活動に入る

うとしています。COEメンバーが指導している大学院生が多数参加しており、今後の発展が期待されます。

一方で、多額の予算を投資したこの活動が果たしてその額に見合った成果を出しているかどうかについては、反省を怠ってはなりません。中間評価においては多様な分野の研究成果を如何にまとめるかについて明確にせよ、との叱咤激励をいただきました。この点は拠点リーダーを始め、多くの事業推進担当者と共に議論してきたところであり、革新的学問分野の創出と併せて、最重要課題であるので後半の活動に期待します。

またどのような研究教育拠点を構築しようとしているのか、具体的な構想を示し、その実現に向けて努力することも急務です。国内外から多くの研究者が訪れて特徴ある共同研究を進め、学位取得を目指す大学院生が世界中から集まってくるような拠点になって欲しいものです。また本学が学術交流協定を締結しているアジア太平洋域の大学と協力して、海外に拠点を作ることも考慮してみてもはいかがでしょうか。研究者や大学院生が存分に研究活動を進めることが出来るような施設が出来れば素晴らしいと思います。

この重要なテーマは5年間という期間で完成するものではなく、その後の継続した活動が重要であることは言うまでもありません。若手研究者の育成は将来にわたって常に私たちの背負っている義務です。そのため、本プログラムのテーマはCOEとしての活動が終了しても継続して活動すべきものと考えており、中期目標・中期計画の中にも明確にその重要性を記述しているところです。